

# 2007年サハリン視察研修 報告書



宗谷建設青年会

---

## はじめに

宗谷岬の沖、43km先に望むサハリンでは、道内経済に大きな波及効果をもたらしている、大陸棚石油・天然ガス開発が進みコルサコフ市郊外のプリゴドノエでは LNG プラント建設が進み開発も本格化しています。

今回、世界最大規模といわれている液化プラント施設を目の当たりにし、世界的なプロジェクトを肌で感じることは、今後のさまざまな活動に対して大きな経験になりうると確信しております。

また、稚内市とサハリンは、日本の会社によるフェリーが就航し、ビジネスや観光を含めた往来が近年際立って盛んになってきております。さらには、サハリン州では国内外の観光客誘致に向けて様々な施策を計画しております。

そこで、サハリン州南部の社会基盤整備の状況を視察し、今後必要とされる、ハード・ソフト両面の調査を実施したいと考え、企画致しました。

特に今回、初めてのサハリン訪問者が多く、経験者とは違う価値観で、現地を視察するべく企画をいたしました。

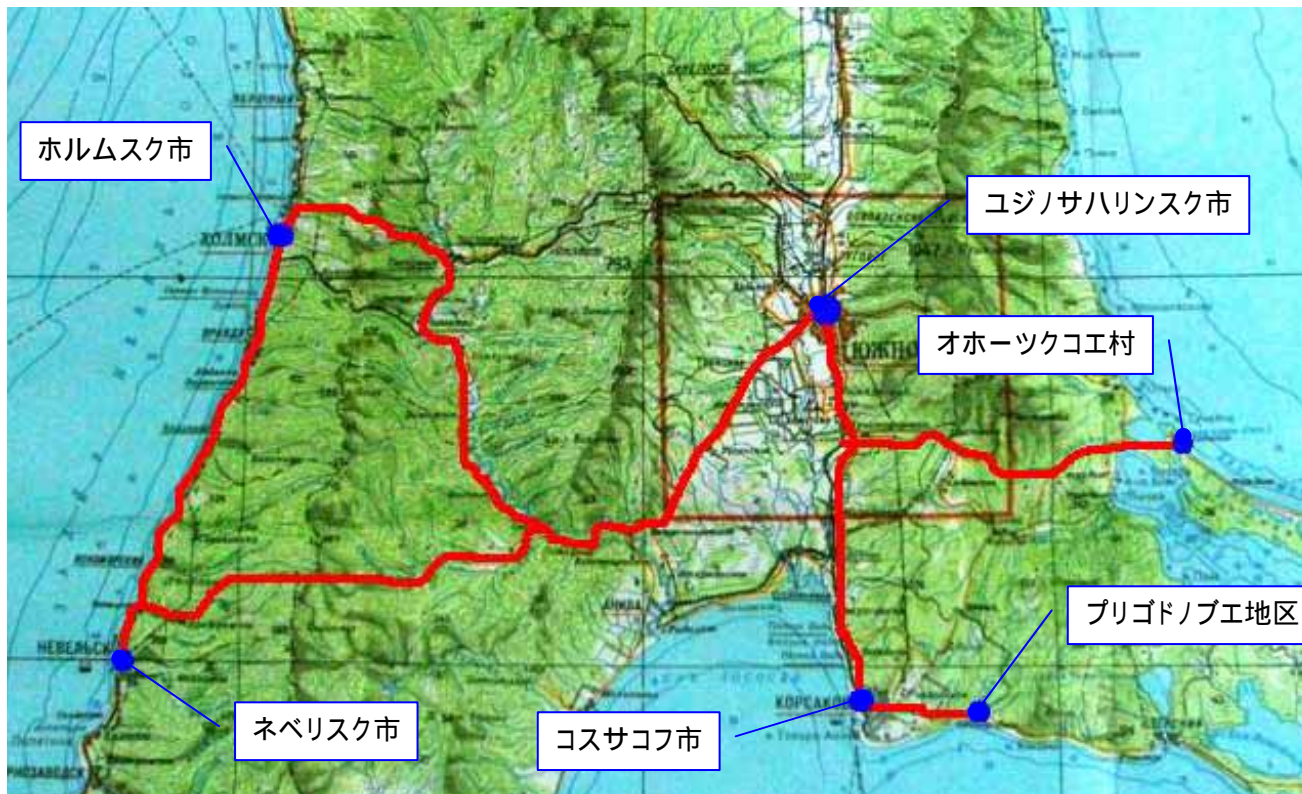
---

サハリン視察研修報告書

1. 行程

日	月日曜日	発着地 / 滞在地名	発着時間	交通機関	行 程
1	6 / 05 (火)	稚内港 コルサコフ港 ユジノサハリンスク	10:00 発 17:30 19:00 20:00	アインス宗 谷 専用車	サハリン航路にて稚内港よりコルサコフ港へ。 コルサコフ港到着。入国手続き後、専用車にてユジノサハリンスクへ。 ユジノサハリンスク到着。 ホテルにて夕食 ユジノサハリンスク(泊)
2	6 / 06 (水)	ユジノサハリンスク コルサコフ市 プリゴロドノエ  コルサコフ市 トナイチャ湖 オホーツコエ ユジノサハリンスク	08:00 09:00 発 09:40 10:30  12:30  16:00 17:00 19:00	専用車	ホテルにて朝食 ユジノサハリンスクよりコルサコフへ。 コルサコフ市到着後、プリゴロドノエへ。 プリゴロドノエのLNGプラント建設現場視察。 (所要1時間)*ワッコルの車で移動。 レストラン「バルハン」で昼食。 昼食後、トナイチャ湖、オホーツコエ見学  稚内市サハリン事務所訪問 ユジノサハリンスク市内見学 市内レストランにて夕食ユジノサハリンスク(泊)
3	6 / 07 (木)	ユジノサハリンスク  ネベリスク市  ホルムスク市  ユジノサハリンスク	07:30 08:30 10:30  12:00  13:30 15:30 19:00	専用車	ホテルにて朝食 ユジノサハリンスクより専用車にてネベリスクへ。 ネベリスク市到着。 ネベリスク市からホルムスク市へ移動。 ホルムスク市到着。 市内レストランにて昼食「レストラン ホルムスク」 昼食後、ホルムスク市内見学。 ホルムスクより熊笹峠経由ユジノサハリンスクへ。 サハリン州立博物館見学とショッピング。 日本食レストランユジノサハリンスク(泊)
4	6 / 08 (金)	ユジノサハリンスク コルサコフ港 稚内港	07:30 08:00 09:00 10:00 発  13:30 着	専用車  アインス宗 谷	ホテルにて朝食 ユジノサハリンスクよりコルサコフへ。 コルサコフ港到着。 出国手続き後、「アインス宗谷」にて帰国の途へ。 稚内港到着。(解散)

2. 位置



3. 渡航メンバー

	氏名	所属団体	企業名・役職
1	藤田 隆明	宗谷建設青年会	藤建設株式会社 常務取締役
2	寺澤 尚哉	宗谷建設青年会	株式会社寺沢組 代表取締役専務
3	高橋 政志	宗谷建設青年会	北開建設株式会社 代表取締役
4	佐藤 雄示	宗谷建設青年会	佐藤産業株式会社 常務取締役
5	竹沢 勇	宗谷建設青年会	株式会社南波組 代表取締役
6	豊島 忠昭	宗谷建設青年会	株式会社伊藤組 代表取締役
7	湯野 昇	一般参加	ひかりスタジオ カメラマン

#### 4. 紀行文

自 2007 年 6 月 5 日 ~ 至 2007 年 6 月 8 日

6 月 5 日 天気 晴れ

08:45 定刻に全員が集合。見送りは富田、後藤の二人だけ。寂しいね～。記念写真を撮る。

09:00 出国審査。いよいよミッションの開始。パスポートを手に「行ってきます」。

09:50 定刻より 10 分早く出港。波は穏やか「天気晴朗で、波低し」。今日の乗船は 26 名と少ない。

早速「出入国カード」に記載。初めての 5 人に既航歴の 2 人がレクチャー。「サハリンへの入国の時と出国の時に必要です。ホテルではんこを押してもらいます云々」注意事項をお知らせし、サハリン航路名物の 100 円ビールで、旅の安全を願う。



おもむろにセコマの弁当を出して食べ始める佐藤。それぞれつまみを持ち寄り行程の確認。

ベタ風で始まった旅はどんな伝説を作るのか・・・

13:00 (以降ロシア時間) 昼食が出る。寺江食品の弁当。それぞれ食べ終わり、昼寝に入る。

14:00 アニワ湾もベタ風。イルカも見られない。揺れないので爆睡。



- 17:10 コルサコフ港入港。波もなく、快適な船旅。入港直前にプリゴノドノエの LNG プラントが望めた。



(コルサコフ港)

- 17:35 下船開始。いつものように、船倉からの下船。船倉にはバックホウやむき出しのエンジンが輸出を待っている。
- 18:15 無事全員入国。今回のガイド兼通訳の文幸子さんが待っていた。何を見ても「いや！いや！しびれる～！」と湯野。早速バスに乗り換え。ドライバーはセルゲイ。早く到着したので「展望台」に向かうことに。展望台ではカメラマン魂に火がつく湯野。カメラを手に連写。たまたま居合わせたロシア人の子どもをモデルに連写。パワー全開。
- 18:35 コルサコフへ向けて出発。移動の車中では幸子「マシンガントーク」で聞き役の藤田。「いや！いや！しびれる～！」を連発する湯野。
- 19:15 ガガーリンホテルにチェックイン。
- 20:00 日本料理店「わさび」で夕食。ロシアのビール「バルティカ3」ウオッカ「プーチンカ」。ラーメン、ニシンは Good。

6月6日 天気 晴れ

湯野は本日別行動。杉川が手配したエレーナとともに、市内を写真撮影。

09:00 ホテル出発。ミラー通りを南進、一路コルサコフへ向けて車は走る。幸子マシンガントークの聞き役藤田。その他は昨夜の疲れかウトウト。道は「2 + 1」と呼ばれる道路。



途中 2005 年に沢山あったパイプのストックヤードの後わずかな量に。



(2005 年 6 月撮影)



(2007 年 6 月撮影)

二の沢あたりから望む干潟には相変わらず座礁した廃船がある。コルサコフを抜け、プリゴノドノエまでの道は未舗装であるが、改良が進んで幅も十分に取っている。

10:20 プリゴノドノエの LNG プラント到着。日露の合弁会社「ワッコル」のバスに乗り換え、臨時のバスを手にサイトへはいる。説明は大釜。彼は 4 年目のサハリンである程度のロシア語も理解している。トレイン 1 は未だ引き渡していないが、ほぼ完成。6 月の末には日本から輸入した天然ガスで燃焼試験を行う予定。鹿島の海外事業部が調達してきたフィリピン人労働者の賃金が 6,000 円/日程度と非常に安い(半分はブローカーが取る)など話を伺う。



11:20 サイトの視察を終え、東側の土砂置き場からサイトを遠望。その後定点観測ではないが西側橋の手前、上陸記念碑の所でサイトを遠望。



(2005年6月撮影)



(2007年6月撮影)

12:00 韓国料理「バルハン」にて昼食。高橋、竹沢の食が進まない。「口に合わない」ではなく、「胃が受け付けない」のでは…



13:30 トナイチャ湖へ向かう。幸子マシンガントークに口数が減る藤田。「山菜大好き。ほらここにもヤチブキがあったよ。」云々。他のメンバーは熟睡。

14:30 トナイチャ湖到着。きれいな湖だが、湖畔にはゴミが散乱。マナーの悪さが目に付く。



(2007年6月撮影)



(2006年11月撮影)

もう少し東進し、オホーツクコエへ。オホーツク海の沿岸に位置するオホーツクコエは漁村で、昭和30年代の稚内の前浜のような町並み。



橋の上からなにやら釣りをしている。浜頓別釣りクラブのメンバーが見に行く。アメマス（アモマス）をひっかけ針で上げようとしている。気の長い話である。しばし見学後来た道を戻りユジノサハリンスク市へ向かう。



16:00 藤田、稚内サハリン事務所を30分ほど訪問。斉藤所長に面会。ちょうど北海道事務所から松村所長と浦田主査が来所して挨拶をする。他のメンバーはレーニン通りを散策。

17:00 ユジノサハリンスク市を一望できる「山の空気」に到着。スキー場の再開発が行われており、ロープウェイの工事が行われていた。8月に完成するそうである。



その後戦勝広場を廻り、ホテルへ。湯野と合流。

19:00 リェジャノイ・スタカーンチク（氷のグラス）にて夕食。地ビールを飲みながら食事。幸子チョイスのスープに高橋、竹沢「口に合う。OK。OK。」・・・回復したようだ。

6月7日 天気 晴れ 一時小雨

08:30 ホテル出発。昨日湯野が「レーニン像が午後のため良いカットが撮れなかった」とのことで、レーニン広場へ。朝日を浴びるレーニン像を激写。

その後、一路ネベリスク市へ向かう。藤田は助手席へ移り、幸子マシンガントークをかわす。聞き役は湯野、寺澤。

一步校外に出ると道路は、歩車道の区別もなく、至る所補修が必要な道路となる。路側では牛を連れて歩く歩行者も。



湧き水があるところで口をすすぎ、後はネベリスクまでノンストップの予定。

「ここで停めて。しびれる～」で停車。川釣りをしているところ、タンポポ畑等々、3箇所停車。幸子「湯野さん早くして、遅れているよ。こんなのどこが良いの。」メンバーからも「浜頓でも撮れる！」の声が掛かる。プロのカメラマンの感性にとまどう一行でした。



ロシアの自然に感動する湯野



ほこり舞う砂利道

途中の峠は舗装されれば「サハリンスカイライン」と命名したくなる道路であった。

- 10:40 砂利道に揺られること約2時間、ネベリスク市に到着。  
間宮海峡(タートル海峡)を望む。  
「しびれる～～！全景が撮りたい！」  
入り口でまたストップ。  
幸子「ブツ、ブツ」



- 11:00 稚内市とネベリスク市との友好都市を記念した碑で下車。湯野、夢中でファインダーをのぞき続けるので、車にひかれそうになる。こっちから「カシャ」あっちから「カシャ」と納得のいくカットを求める。



少し先のネベリスク市役所でトイレを借りる。その間も激写。近くの自由市場(バザール)へ廻る。生ウニを2パック150ルーブル(630円)で購入。昼食で食べることに。湯野、ことわりなくシャッターを切り怒られる。

- 11:40 ネベリスクからホルムスクへ向かう。



未舗装の道路を約1時間移動。中には日本時代に架けた橋を今も共用している。途中で湯野「いや～しびれる～！」の言葉に、幸子「何が良いの？」で止まらない。幸子「マシニングトーク」を聞かないメンバーに「私一生懸命案内しているのに、誰も聞いていない！もう案内しないよ！」と怒られる。でも「見なさい！コンブいっぱいあるよ。おいしそうですね」には、反応できないメンバーでした。



- 12:30 ホルムスク市近くでコンクリート版舗装に変わる。廃墟と化した旧王子製紙工場跡地を通り市内へ入る。「レストラン ホルムスク」で昼食。寺澤が醤油を出し、バザールで買ったウニを食べる。悪くない味である。幸子チョイスの料理は口に合ったようだ。

- 14:00 昼食後ホルムスク駅横のバザールを見学。事件発生！先に歩いていった高橋、湯野が幸子に助けを求める。屈強のロシア人数人に囲まれる。また写真を撮ったようだ。「湯野さん、私の話聞いてないから！」と怒る幸子。ファインダーを覗けない湯野はさっさとバスに戻る。

14:10 ホルムスク市役所前。「湯野さん写真撮っても良いよ。私が良いと言った所だけだよ。」と念を押される。サハリンの4つ目の都市だが、どこにもレーニン像がある。

14:20 ホルムスク市内の高台から港を遠望。駅や港はテロ対策で写真撮影が厳しくなったとか。話を聞かないメンバーに幸子「もう案内をしないよ！」と怒られる。

14:30 ホルムスク港北側の海浜公園へ。防波堤は崩れている。大割石の被覆も被災している。

幸子がコンブを拾ってくる。高橋、竹沢、豊島が生のコンブを食べさせられる。寺澤近くの水中にバッテリーが投棄されているのを見て「おなか一杯」と断る。



15:00 ホルムスク市を出発。すぐに熊笹峠を通過。のり面の保護が十分では無いのが気に掛かる。



峠の頂上付近の戦勝記念碑を見てユジノサハリンスク市へ向かう。



16:45 郷土資料館に到着。2階と外壁の補修工事をしている。右側スロープの補修では型枠を切り張りで押さえている。セパを使わないロシア風の施工である。前庭の改修は終わっており、多くの家族連れがくつろいでいる。前側の歩道もインターロッキングで舗装し直しており、柵も新しいモノとなっていた。



展示物はあまり変わらないが、恐竜の化石が増えていた。その後、ショッピングをし、お土産を買い込む。

19:00 ユジノサハリンスク市役所横の「ふる里」で夕食。ビール(アサヒ)、ウオッカ(プーチンカ)で乾杯。最後の夜に話は盛り上がる。

6月8日 天気 晴れ

事件発生！！出発前になり湯野が「出入国カード」の片方を捨ててしまっていた。幸子「こんなこと初めてだよ！」と困惑。とりあえずホテルのフロントからコピーをもらう。「何でもかんでも捨てたらだめ！日本に帰ってから捨てなさい！」と怒られる湯野。



08:00 ホテル出発。車内は寝息が響く。コルサコフ市近くのバス停は、白樺をイメージした配色となっている。

08:40 コルサコフ港到着。昨晚の各自持ち寄りの残りを幸子に渡し、感謝！早速出国審査へ。湯野コピーで無事通過。幸子安心。

10:00 定刻に出港。旅の疲れを取るために横になる。外はガスがかかり何も見えない。風もなく凧である。藤田サハリン航路帰路名物の「あ、これ食べようカレー」を「チン！」船内に広がるカレーのにおい。

12:30 昼食の弁当。寺江食品のパン弁当。食べては寝るメンバー。疲れがたまっているのかな

13:30(日本時間)霧の中稚内港入港。無事入国審査も終わり、帰国。以上で総てのミッションを終了。出迎えもない中解散。お疲れ様でした！

文責 藤田隆明

文中敬称を略しています。



## 5. 参加者感想

宗谷建設青年会  
副会長 寺澤 尚哉

2005年に実施された、「宗建会創立20周年記念事業 サハリンミッション」以来、2年ぶりとなるサハリン渡航に6月5日～6月8日の日程で参加しました。  
私自身、サハリンを訪れるのは、今回の視察研修で4度目になります。

渡航前に研修目的を自身で三つ掲げました。一つ目は、当然、2年前に訪れたプリゴドノエのLNG建設現場の進捗状況を確認すること。二つ目は、開発景気に沸く州都ユジノサハリンスクの状況を視察すること。そして三つ目は、州都に対してネベリスクをはじめとする、地方都市の経済状況を少しでも肌で感じ取ることができればと考えていました。

今回の視察研修は宗建会(6名)と一般参加者(1名)の合計7名のメンバーで行われました。渡航経験者は、藤田隆明会長と私の2名だけではありませんでしたが、少人数であったことと、理性溢れるメンバーばかりだったため、道中 さほど大きな混乱もなく、有意義な視察が出来たと思っております。

プリゴドノエのプラント工事現場は、会長が報告書に書いたように、天然ガスの液化施設や10万立方メートルのLNG貯蔵タンク、出荷栈橋等の工事がほとんど終了していました。

ご存知のとおり、パイプライン工事は2006年9月、ロシア政府より環境アセスメントの不備を指摘され、開発の中止命令を発出され、環境破壊に対し損害賠償を請求すると報じられた問題で半年間中断していたために完成が遅れていました。  
そのため、燃焼試験に使用するガスは日本から輸入する予定と伺いました。

現場内の作業員の数はピーク時の6割程度で、施工を担当している日本の企業も段階的に撤収している状況です。

LNGを運搬するために14万t級のタンカーが入港するのですが、一回の積込でタンク1基半分の運搬が可能であり、そのために貯蔵タンクの容量不足が懸念されていることが以前から指摘されていました。

この問題を補うため、隣接地にさらに1基同じ規模のタンクを建設するようです。

原油出荷ターミナル付近では、緊急時に使用するオイルフェンスや汚濁防止設備を格納するための大きな倉庫が韓国企業によって建設されていました。  
構内道路の舗装工事が盛んに行われており、プラントが完成間近の印象を強く感じました。

ユジノサハリンスク市内の状況ですが、現在、営業中のホテルが29軒、この7～8年の間に2倍以上に増え、さらに3軒のホテルが建設中だと聞きました。これは石油・天然ガス開発事業関連の技術者やビジネスマンが急増しているためです。

我々が泊まったガガーリンホテルでも、欧米やアジアからと思われる宿泊客が多く見受けられました。

宿泊したホテルの室内は広く清潔で、テレビ・冷蔵庫はもちろんエアコンが完備され、タオルや石鹸、シャンプー、ドライヤー等日本のホテルと比べても遜色ない設備を整えていました。

しかし、ユニットバスの仕切カーテンは相変わらずツツパリ棒で、メンバーの竹沢さんが今回の犠牲者となりました。

市内の幹線道路は、舗装の打ち換え工事が盛んに行われ、歩道の修繕工事(インターロッキング)も行われていました。

前回の訪問時には工事中だった、郷土博物館の前庭も綺麗に整備が完了し、多くの家族連れで賑わっていました。

自動車保有率が上昇し、ユジノ市内は朝晩の交通ラッシュが慢性化し、あちらこちらで車同士の物損事故が多発していると通訳の幸子さんが説明してくれました。

郊外では、洒落た一軒家の建設ラッシュが目につきました。建て売り物件の中には、販売価格が日本円で3,000万円以上する住宅があると聞いて驚いたのですが、それが直ぐに売れてしまうと聞いてさらに驚きました。

賃金と物価の上昇、景気の華やかさを強く感じたと同時に、まさしくユジノは今、チョットしたバブルの絶頂期なのではないだろうか？と思いました。

ユジノ郊外からネベリスクへ向かう道路と、ネベリスクからホルムスクへと続く道路は、全線未舗装道路です。路面の凸凹が激しく、乾燥した泥が覆い被さった砂利道を、すれ違う車が皆、猛スピードで走るの、土煙で一瞬前が見えなくなり、乗っている我々はとても怖い思いをしましたが、運転手のセルゲイだけは「そんなのお構いなし！」ってな感じで淡々と運転を続けていました。サハリンではフロントガラスにヒビが入っている車を時々見かけますが、たぶんこういった砂利道を走ることが原因の一つなんだろうと思いました。

それと、切土法面は裸地状態で、崩れ落ちた土砂がいたるところで法尻に堆積していました。堆積土砂をバックホーで取り除いている作業現場を見ましたが、崩れ落ちた土砂だけ取り除くのではなく、その法尻をさらにポケットのように掘り下げて、次の堆積に備えているようでした。

法覆工とか排水工などの考え方は、日本と全く違うようです。

ネベリスクに到着して先ず目に飛び込んできたのは、老朽化した団地群とその間を縫うようにしながら各家庭とを繋いでいる暖房用の配管です。

一部保温材が剥がれ、露出した鋼管は錆がひどく、寒い冬は安定して暖が取れているのだろうか少し心配になりました。

市役所にほど近い道路の交差点角に、稚内市との友好都市締結を示す綺麗な記念碑が建っていました。

市役所前の広場にはお決まりのレーニン像が建ち、夏休み期間中の子供達が大勢遊んでいましたが、大人達にはどこか活気が無く、真新しい施設も見あたらず、ユジノに比べると、どことなく寂しい感じが漂っていました。

ホルムスクでは市役所前の広場に新しいショッピングセンターが建設中であり、港の近くに海浜公園が綺麗に整備されていました。

公園には、バッテリーで動く子供用の電気自動車や空気で膨らむふわふわ遊具が設置されていて、大勢の子供達が楽しそうに遊んでいます。

港では大陸からの物資が次々と荷揚げされていて、人々の往来も活発で街中に活気を感じることが出来ました。

ユジノに戻り、最後に訪問したサハリン州郷土博物館の展示物の中に、サハリン州における人口の推移を示したデータがありました。

現在の同州の人口は約30万人で、この20年弱の間に約3割も減少しているそうです。しかし、ユジノだけは逆に人口が増えていて、地方の衰退だけが数字として現れていると知りました。

その時、何故か、ユジノやホルムスク市内のにぎやかさとは別に、朽ち果てていく旧王子製紙真岡工場の姿とネベリスク市の錆びた暖房用鋼管が強く脳裏をよぎりました。

最後に、この度の視察研修では、初めてサハリン渡航するメンバーのために、広く浅く行程を考えてくれた当会の藤田隆明会長に感謝を申し上げるとともに、サイト視察のために、臨時パスの手配や現場の案内をしていただいた大釜氏に、そして、ご支援をいただいた宗建会並びに関係各位に心より感謝を申し上げます。

「地下資源関連の開発景気が今後どの様にサハリン州を変化させるのか？」次なる興味を強く感じさせる、大変意義ある視察でした。

- おわり -

## 5. 参加者感想

### サハリン渡航 感想文

北開建設株式会社 高橋 政志

まずは宗建会、会長藤田さん、副会長寺澤さん、そして宗建会の皆様に感謝したいと思っています。初めてのサハリン渡航に参加させてもらい、無事にまた日本の地・稚内に帰ってくる事が出来ました。私にとってサハリンはもとより、海外は初めてのことでしたので、まず、パスポートの手配からでした。

支庁2Fに行き、説明を聞いて書類をもらい、写真を撮って等なかなかなか面倒なことでした。

出発前日の4日に浜頓のスーパーで買出しです。寺澤さんからは何を持っていけば良いか話を聞いていたので、カップラーメン5ヶ、水2入り2ヶ、焼酎(ワリッカ)、つまみ、カンズメ(サバ、シジミ、サンマ等)を買っていざ出発です。

前日の夜なかなか寝付けず何か遠い昔に経験したような…これって小学校の時の修学旅行みたいな感じ？私自身、真面目な好青年のつもりですが、私のサハリン渡航を知っている人は皆同じ事をいいます。悪い病気持ってくるなよ！！ どうして??

さて本題に入りますが、私のサハリンの感想ですが、まず物事の考え方(思想の違い)が根本的に全然違う事です。街中ゴミだらけで、青年達が昼間から上半身裸でビールやウォッカを飲むこと仕事してても、まずほとんど一服時間のような感じでした。街中の下水道マンホールは、いたる所で蓋のない所があって車はそれを避けて走ってること。マンホールの中を覗くとビールの瓶や缶、ゴミが溜ってました。

次に食の違いです。何を食べても何か生臭い感じがしてほんと駄目でした。カップラーメンを持って正解でした。

LNGプラント建設現場には、規模の大きさ、設備、世界中の人種の作業員、規律等サハリンの街中とは全く違うマナー、規律の良さが目立ちました。

車の移動がかなり有りましたけど田舎の風景等を見て、つくづく昔は日本の領土だったのに残念だったのに残念だと思いました。

次回もし2~3年先でもまたこのようなサハリン訪問があった時はどれだけ変わったのかも見たいので又行ってみたいと思います。

私自身サハリンに行ったら大変良い勉強になったと思います。

宗建会、役員、会員の皆様に感謝しております。本当に行かせてもらって有難う御座いました。

## 5. 参加者感想

### [サハリン研修 感想文]

株式会社 南波組 竹沢 勇

今年度、宗谷建設青年会に新規加入して、まだ日の浅い私が、「サハリン視察研修」に参加できたことを 大変、光栄に思っております。 どうも有難う御座いました。

まず、この研修についての 感想ですが、最初から最後まで しみれました。

6/5 の当日は、初めてのパスポートを手に 少し緊張しながらの出国となりました。

船の中で 出入国カードに記入、先輩達に聞きながら何とか記入を終え、100 円ビールに手が伸び、いつもの自分を取り戻しました。その後は、爆睡……そして、到着！ 入国審査は、緊張でした。何を言われても つい日本語で回答なんとか審査も終わり、ガイドの文幸子さんと合流し、バスに乗込み早速、移動バスの中で幸子さんが「あんたとは、何回も会ってる」と言われ、びっくり！

多分、いや絶対 会った事は無いと思う。そんな中、ガガーリンホテル到着。そして夕食

日本料理店「わさび」は、味は最高！でした。その後、「カサブランカ」へ

ちなみに「カサブランカ」には、3 日間行きました。 撃沈……

6/6 は、LNG プラントへ向かい、スケールの大きさにびっくりしました。

本当に来て良かったと思えました。 昼食は、韓国料理屋で、写真付のメニューを見ながら選択

豊島氏が「これ、すき焼きでないか」と言うので、それを注文。

でてきた物は、三平汁のような物。 うっ！ だめだ！ 帰りたいと思った。

その後は、トナイチャ湖などを廻り 途中でマスの引っ掛けを見物して、地ビールを飲みながら夕食。 覚悟を決めて食べたが 口に合う。 良かった。地ビールは、黒ビールが個人的には、美味しかったです。

6/7 は、バス移動が長く おまけに砂利道。 バス最後部に乗っていた私と高橋氏は、跳ねて ケツが痛い。早く到着しないかなと思っていると カメラマンが「いや～ しびれる～ 止めて」を連発！

おまけにタンポポまで撮影。 腹立つ

バザールで色々な事？があり、少しビビリながら 海浜公園へ行き 幸子さんが昆布採ってくるからバッグ持ってなさいと私を強制連行。他の人が採ってる昆布を勝手に拝借。また、怒られると思

い、少し距離をとる。昆布を食べれといわれ 最初要らないと断ると、無理矢理

口に詰め込まれ あせる。 なんぼでも昆布を渡され困惑しました。 おまけに 寺澤氏に

「タケさん バッテリーが水中にありましたよ」と言われ、ショック！ その後、郷土資料館

などを見学し 「ふる里」で夕食を済まし、寺澤氏の部屋で反省会をしました。 笑いました。

6/8 無事 船に乗り稚内へ到着。 藤田会長の挨拶により無事 研修会終了。

有難う御座いました。 私共浜頓別 5 名は、市内で生ビール、ラーメンをやっつけて浜頓別に

帰りました。 最後に、本当に この研修は、いい意味で「しみれました。」

意味のない感想文になりましたが、 有難う御座いました。

## 5. 参加者感想

### サハリン視察研修を終えて

(株)伊藤組 豊島忠昭

最初に感じたのは、社会資本整備の未発達と人種の多さ、また昼間っから売店の外でビールを飲んでいるロシア人の多さでした。

(ちょっと羨ましかった)

たばこの吸い殻やゴミがあちこちに捨てられ、公衆トイレや公園等の公共施設などのマナーの悪さには驚くばかりでした。

また、スーパーの店員やホテルの警備員などの接客態度には、国民性の違いだけでは済まされないような気がしました。

そんな中、プリゴドノエのLNGプラントの規模の大きさ、また、ユジノサハリンスクのスキー場の開発は、将来性を感じる物がありました。

最後に、風俗、文化、生活習慣、歴史的背景の違いを痛感しました。ただ遠い親戚なら付き合いなくて済むが、ロシアは、稚内から見えるくらい近所、付き合いがなければならぬ。だったら、ロシア人の考え方、感じ方を、我々がその違いを知った上で、理解し合うことが必要だと思いました。

藤田会長はじめ、同行した会員の皆さんには色々お世話になりました。有り難うございました。

## 5. 参加者感想

### サハリン視察 感想

宗谷建設青年会  
理事 佐藤産業株式会社  
常務取締役 佐藤 雄示

ロシア国サハリン州は海を隔て、稚内から北へわずか約43kmと本当に近い隣国の地ではあるが、船に乗り稚内港からコルサコフ港へは5時間30分と意外に時間がかかると感じました。

私が外国へ行くのは、イギリス、フランスに続き、ロシアは3カ国目ですが、初めて行く国の入国手続きのときは、いつも緊張します。

ロシアというサハリンの第一印象は、軍人を見たせいか空気が張りつめた緊張感のある雰囲気を感じました。

コルサコフ港へ着き、ユジノサハリンスクへ向かう道中の感想は、町並み、建物は古くさく、道路も簡単なデコボコ舗装で所々穴があり、空気はホコリっぽく、日本の中古車が多いという印象です。サハリンへ来たことのある年長者の方々も、昭和30、40年代の稚内の様だと言っていたことを思い出し、そんな感じなのかなと思いました。

私はそんな印象の中、ロシアという国はどのような国で、この国に住んでいる人はどのような人なのか、またどのような生活をしているのか、とても興味を持ったのを覚えています。

ユジノサハリンスク市、コルサコフ市、プリゴロドノエのLNGプラント建設現場、トナイチャ湖、オホーツコエ、ネベリスク市、ホルムスク市、熊笹峠、サハリン州立博物館と多くの市街地、地域、施設を視察してきました。

サハリン島は地図で見るより広く、南北約950km、東西最大約160km、面積76,400km<sup>2</sup>。北海道の面積が約83,500km<sup>2</sup>に対し、サハリン島は南北に長く、面積はほぼ北海道と同じくらいです。移動するにもユジノサハリンスク市を中心に各都市への主要道路以外はすべて砂利道で、移動時間もかなりかかり、北海道を移動するよりも、より遠く広く感じました。また、気候や自然環境も本当に宗谷地域に似ていると感じました。

サハリン州の各都市には、ロシア人、ウクライナ人、朝鮮人、ベラルーシ人、タタール人、ニブヒヤアイヌといった先住民など約118民族の人々が生活しており、日本人である私にとってアジア系の人たちは身近に感じられるが、東欧系、アラビア系の人たちは、知人もなく、テレビで見るくらいで出会う機会も無いのでとても新鮮に感じられた。

各都市の市街には、平日の日中にもかかわらず、老若男女、子ども達、たくさんの人たちが公園で涼んでいたり、遊んだり、花壇の手入れをしていたり、釣りをしたり、人生を楽しむかのようにゆっくりと過ごしている姿が見られ、サハリンのことを何も知らない私には、日本のようにセコセコ働いている姿とはかなり違った国民性を感じました。

また、特に感じたのは女性の美しさで、顔が小さく細身で足が長く、出るところは出ている、服装も明るい原色のものが多く、温かかったせいか、流行なのか、若い女性は短めの衣服にお腹をだすファッションが目立ちました。

ブリゴロドノエのLNGプラント建設現場は、想像以上に規模が大きく、ロシアはもとより、アメリカ、トルコ、韓国、フィリピン、中国、日本など様々な国の企業、労働者が日々24時間体制で働いていました。労働者6,000から10,000人の収容施設が1つの街であり、警察、病院等の公共機関もあるなど、プロジェクトの大きさが感じられ、このような巨大プロジェクトの現場は、どのような人物が管理統轄しているのか会ってみたい気がしました。

今回の視察で私自身いかに見識が狭く、考え方も狭い人間かを痛感しました。語学力もなく、せめて英語くらい話せる能力を持たなければ、自分が伝えたいこと、相手を理解することもできない。その国にはその国の常識、考え方があり、日本とすべて比較するのではなく、受け入れる心のゆとりをもたなければ自分は成長しないと感じました。人間としてもっともっと成長するために必要なことをたくさん学び、経験してゆかなければならないと感じた視察でした。

宗建会会長をはじめ、役員、会員の皆さんには、今回の視察で良い経験をさせていただき、本当にありがとうございました。